



みんなで作る 黄金色の道

5/23 アルプス花街道一斉定植

市内の道路沿線にマリーゴールドを定植する事業、アルプス花街道（同実行委員会主催）の一斉定植が5月23日、市内各地で行われました。この取り組みは、長野オリンピック開催の際に、観光客を気持ち良く迎えようと始まり、本年度18年目を迎え、85団体の皆さんが参加しています。この日、一斉定植に参加した下鳥羽区長の細田宏さん（豊科）は「市制施行10年目の記念の年を花街道で彩りたいと思います」と話してくれました。



縄文土器から安曇野の歴史を学ぶ

6/6 豊科郷土博物館「縄文土器を作ろう！」

豊科郷土博物館の講座「縄文土器を作ろう！」が6月6日、鐘の鳴る丘集会所（穂高有明）で行われました。当日は市民など15人が参加。参加者は、講師の矢口健陽児さんから安曇野の縄文時代の様子などの説明を受けながら、穂高地域で出土した縄文土器（模型）を参考に土器を作りました。この講座は、市内に多数点在する縄文遺跡などから、安曇野の歴史を楽しみながら知ってもらおうと企画したもので、この日、完成した土器は、乾燥させ10月に当時の方法で焼き上げる予定です。

心安らぐ 満開のバラ園

5/30 豊科近代美術館 バラ祭り

第15回バラ祭りが、5月30日から6月7日まで、豊科近代美術館で開催されました。

初日となった30日、美術館と友の会共催によりバラの苗などの販売も行われ、多くの来場者で賑わいました。バラ祭りに毎回訪れているという大久保福代さん（豊科）は「今日は家族と一緒に来ました。毎年バラが咲くこの時季を楽しみにしています。」と話してくれました。

美術館と友の会の皆さんが丹精込めて育てているバラは約500種類、1000株。毎年、色とりどりの花と素晴らしい香りで訪れる人々を迎えてくれます。見頃は5月下旬から6月末頃までです。（入場無料）



新緑の廃線敷を歩く

5/30 旧篠ノ井線廃線敷ウォーキング

市民の皆さんに自然と歴史・文化など地域の良さを再認識してもらおうと歩いて楽しいまちづくりプロジェクト「旧国鉄篠ノ井線廃線敷ウォーキング」（市主催）が5月30日、明科東川手の同ウォーキングコースで行われました。この日は市民約30人が参加。参加者は、地元潮沢区特産のホテイアオイを使ったウォーキングを学んだり、同区の自然や歴史をガイドから聞いたりしながら、往復約8キロのコースを約3時間かけて歩きました。

夫婦で参加した二木淑子さん（穂高牧）は「夫の実家が潮沢で、蒸気機関車の汽笛を帰省する度に聞いていました。50年前当時を懐かしみながら歩きました」と話してくれました。



感じてほしい 農業の魅力

5/27 農家民宿事業受け入れ開始

都市部の中学生・高校生が市内の農家で、1泊2日の農業体験を行う農家民宿事業（市農家民宿連絡協議会主催）が5月27日から始まりました。初日は、大阪府枚方市楠葉中学校の生徒74人が本市を訪問。堀金公民館駐車場で農家の皆さんとの対面式が行われ、農家民宿連絡協議会会長を務める古旗和江さんは「私たち農家も初めての事で緊張しています。安曇野の自然の中で農業の魅力を感じてほしい」と生徒たちに語りかけました。対面式後、生徒は農家の皆さんと一緒に、リンゴの摘果や田植えなどを行い、初めての経験に目を輝かせていました。

解体前の支所を使い、救出訓練

5/28 松本広域消防局 特別救助隊訓練

松本広域消防局特別救助隊による訓練が5月28日から3日間、解体を控えた市役所穂高支所を使って行われました。初日には、市内の豊科のほか渚、塩尻の各消防署に配属されている特別救助隊員ら24人が参加。倒壊した高層建物の複数の階に閉じ込められた負傷者を救出するという想定で訓練を行いました。

訓練では、隊員がはしごを使って2階に登り、建物に進入。15分ごとに作業を交代しながら、救出口を作るため、鉄製の防火扉をエンジンカッターで切断したり、鉄筋コンクリートの壁にドリルで穴をあけ、探索用のカメラを差し込んで負傷者の位置を確認した後、削岩機で壁を壊したりしました。

訓練施設ではなく実際の建物を使った訓練は、貴重な経験と話す特別救助隊長の上條信男さんは「隊員が進入経路や必要な資機材など自ら考えて活動する良い機会になりました。一人でも多く救出できるよう知識・技術を向上していきたい」と話しました。

